

I 地域貢献

II 教育

III 研究

IV 診療

V まちづくり

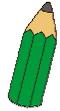
VI 法人運営



## Ⅱ 教育

### 1. リベラルアーツ教育の実践 医の心をもった医療人の育成 医療経営に関する教育の確保

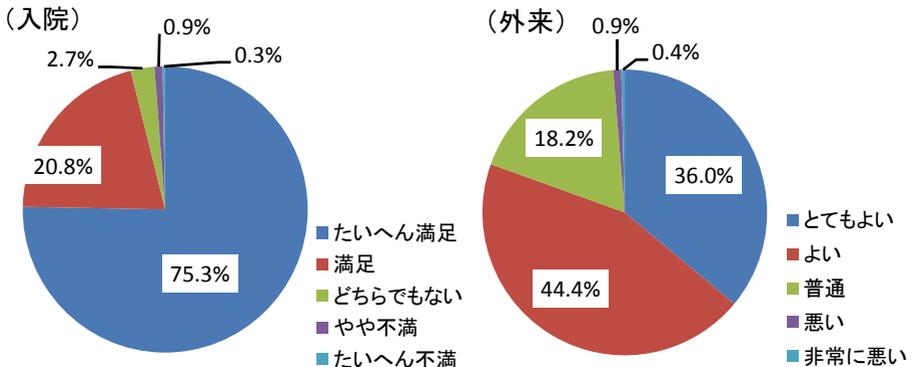
#### 現状あるいは課題



(現状)

- ・学外講座の受講者数(単位互換人数) 7名(平成24年度)
- ・医師の言葉づかいや態度に満足した患者の割合  
入院96.1%、外来80.4%(平成23年度)
- ・医師になる強い自覚を持った医学科学生の割合  
30.6%(平成22年度)
- ・看護師になる強い自覚を持った看護学科学生の割合  
33.2%(平成22年度)

医師の言葉づかいや態度に対する満足度



(課題)

- ・具体的な目標・目的を掲げ、幅広い教養も修得した医療人の輩出が必要
- ・必ず診るといふ医師としての社会的使命と責任の自覚が必要
- ・今後の医療人のあるべき姿として必要な経営概念の理解・修得が必要

## 成果目標

リベラルアーツ教育に沿った  
新カリキュラムを導入する

外部有識者を含む一般教育  
検討委員会を設置・運営する

医師・看護師の理想像を理解し、  
医師・看護師になる強い自覚を持った学生  
の割合 90%を目指す

大学院に医科学専攻医療経営  
学科目を設置する

## 中期計画

カリキュラムの見直し・再構築を行い、医療人にふさわしい教養や倫理観を培うリベラルアーツ教育、および国際感覚、実践的英語能力等の習得を目的とした幅広い教育を強化する。

## 大学の取組

- ・一般教育検討委員会の設置によるリベラルアーツ教育の充実に向けたカリキュラムの構築
- ・アンケート調査の実施による学生の意見及び満足度の的確な把握
- ・大学院に医科学専攻医療経営学科目を設置

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
外部有識者を含む一般教育検討委員会の設置・運営	設置	運営				
新カリキュラムの策定・導入	アンケート実施 他大学の状況調査	(案)策定	新カリキュラム導入			
医師の理想像を理解し、医師になる強い自覚を持った学生の割合	40%	55%	70%	80%	85%	90%
看護師の理想像を理解し、看護師になる強い自覚を持った学生の割合	40%	55%	70%	80%	85%	90%

## Ⅱ 教育

### 2. 教育内容の評価

#### 現状あるいは課題

(現状)

- ・カリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合  
医学科・看護学科ともに約40%（平成22年度）

(課題)

- ・在学生アンケートの授業に対する満足度の向上が必要
- ・時代に即したより良い教育を行うための適宜適切な教育内容の評価が必要

#### 成果目標

評価体制の構築と評価を実施する

カリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合を平成22年度に比べ半減を目指す

#### 中期計画

教員の教育力向上のためのF D (Faculty Development) 活動(\*1)の活性化および教員と学生の双方向性の授業評価システムを構築することにより、講義・実習・研修内容の充実を図る。

#### 大学の取組

- ・双方向の授業評価システムの構築及び実施による授業の改善
- ・教員の表彰制度の導入
- ・FD研修会の実施による教育能力の向上

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
カリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合	医学科	39%	36%	30%	26%	22%	20%
	看護学科	39%	36%	30%	26%	22%	20%
教育内容の評価		評価体制の検討・構築			評価の実施		

\*1 F D (Faculty Development)：教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称である。具体的な例としては、新任教員のための研修会の開催、教員相互の授業参観の実施、センター等の設置などを挙げることができる。(文部科学省ホームページより)

## II 教育

### 3. 老朽・狭隘施設への対策

#### 現状あるいは課題

(現状)

- ・施設に満足している学生の割合  
25%以下(平成22年度)

(課題)

- ・老朽かつ狭隘な施設への対策が必要



#### 成果目標

新キャンパスの平成33年中の  
オープンを目指す

教育・研究部門等移転対策  
検討委員会を設置・運営す  
る

#### 中期計画

新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。

#### 大学の取組

- ・平成33年中の新キャンパスオープンを  
目指した整備の推進
- ・教育・研究部門等移転対策検討委  
員会の県と合同での設置・運営

#### 県の役割

- ・新キャンパスの移転整備(全額県  
負担)
- ・教育・研究部門等移転対策検討  
委員会の設置(大学と合同)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
新キャンパス の整備	基本構想 策定	→	基本設計 着手	→		建築工事 発注準備

# Ⅲ 研究

## 1. 研究の適切な成果評価

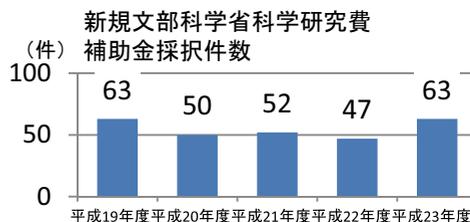
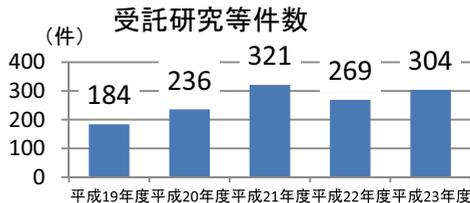
### 現状あるいは課題

(現状)

- ・研究実績(平成23年度)  
受託研究等 304件、  
新規文部科学省科学研究費  
補助金 63件、  
新規共同研究 20件、  
寄附講座 4講座、  
独自研究 不明

(課題)

- ・研究項目毎に適切な成果評価  
が必要



### 成果目標

外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する

### 中期計画

研究に関する外部有識者を含む自己評価委員会を設置・運営するとともに、教室主任に研究目標の明確化を求め、達成状況を自己評価させ、極めて高い研究業績をあげた者に対する顕彰制度を新設する。

### 大学の取組

- ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I -3)
- ・研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I -3)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
外部有識者を含む 評価委員会の設 置・運営	設置	運営				

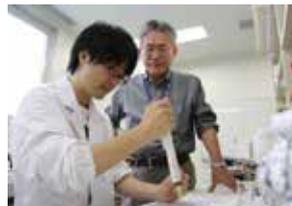
# Ⅲ 研究

## 2. 有能な研究者の獲得

### 現状あるいは課題

(現状)

- ・ 学生・若手の基礎医学系の研究者が不足 (学生等の研究希望者数の伸び悩み)
- ・ 基礎医学系教員育成数 2名(平成24年度)
- ・ PubMed対象の英文学術論文数 214件(平成23年度)



(課題)

- ・ 研究成果の積極的な発信などによって、医科大学の認知度の向上が必要

### 成果目標

基礎医学系教員  
14名以上の育  
成を目指す

PubMed対象の  
英文学術論文数延  
べ1,400件を目指  
す

### 中期計画

研究医養成コースの充実に加え、学内共同研究プロジェクトや若手研究者への支援制度の充実等により、基礎医学・社会医学・臨床医学の研究を推進する高度な知識・能力と意欲を持つ研究人材を育成し、大学全体の研究競争力を高める。

### 大学の取組

- ・ 研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I -3)
- ・ 基礎医学・社会医学研究者の増加を図るための研究医養成コースの充実
- ・ 研究助教制度、顕彰制度、若手研究者支援制度の導入等、研究体制強化の取組実施
- ・ 女性研究者の継続・復職支援の充実等による女性研究者支援

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
基礎医学系教員育成数(累計)	4名	6名	8名	10名	12名	14名
PubMed対象の英文学術論文数(累計)	220件	446件	678件	916件	1,160件	1,400件

## Ⅲ 研究

### 3. 健康・予防医療等研究範囲の拡大

#### 現状あるいは課題

(課題)

- ・県民の健康や予防医療に繋がる研究の推進が必要

#### 成果目標

リビングサイエンスの推進に向けた具体的な研究を実施し、県内へ普及する

#### 中期計画

MBT構想や奈良県健康長寿コホートスタディ等について計画・推進し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスを推進する。

#### 大学の取組

- ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3)
- ・「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲: I-3)
- ・奈良県健康長寿コホートスタディ、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元(再掲: I-4)

#### 県の役割

- ・大学が行う地域貢献の取組に対して支援

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
リビングサイエンスの推進	新研究テーマ(*1)の検討		新研究テーマ事業の実施 県内への普及検討			
	既存事業の推進					

※1新研究テーマ：MBT構想、生薬、奈良県健康長寿コホートスタディ、スポーツ医学など

# Ⅲ 研究

Ⅰ 地域貢献

Ⅱ 教育

Ⅲ 研究

Ⅳ 診療

Ⅴ まちづくり

Ⅵ 法人運営

## 4. 研究環境の改善

### 現状あるいは課題

(現状)

- ・研究施設の老朽化(築35年～50年)

(課題)

- ・老朽かつ狭隘な施設への対策が必要



### 成果目標

新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す

教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する

### 中期計画

新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。

### 大学の取組

- ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲:Ⅱ-3)
- ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3)

### 県の役割

- ・新キャンパスの移転整備(全額県負担)
- ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の設置(大学と合同)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
新キャンパスの整備	基本構想策定	→	基本設計着手	→	→	建築工事発注準備

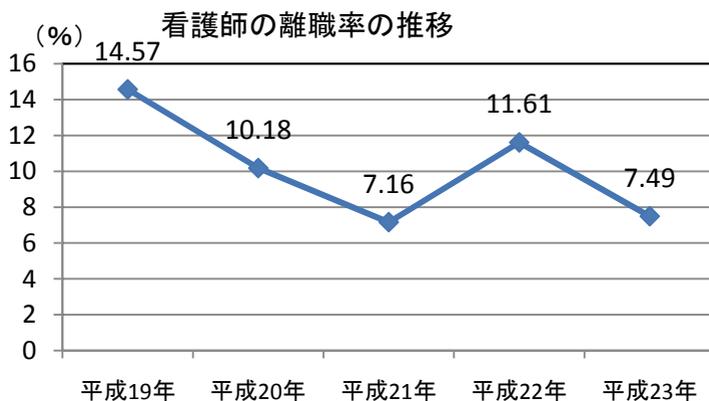
## IV 診療

### 1. 医師・看護師等の離職防止と人材確保

#### 現状あるいは課題

(現状)

- ・医師の長時間労働などによる疲労度の増大が顕著
- ・看護師が慢性的に不足
- ・女性医師数(女性の臨床医学教員) 23名(平成24年4月現在)
- ・看護師の離職率 7.49%(平成23年度)



(課題)

- ・医師・看護師等の離職防止と人材の確保が必要

